

Venture Scout

●ベンチャースカウト

はじめて観る街や風景 そして「自分」との出会い

小さなバックパッキングのすすめ

「歩く」ことで、ちいさな路傍の草花の美しさや、初めて観る小さな虫たちの命の輝きを見つけ、おおくの驚きや感動する喜びを知る。
ゆっくりと流れる「時」の中で自分自身を見つめ、家族や友だちのことを想いそして、多くを気づくことで「知ることの喜び」を理解する。



バックパッキングもしくはバックパッカーという言葉を見たことがあると思う。そう、ストーブやテント、シュラフなど衣食住の道具をコンパクトにまとめ、ザックに詰め込んでかつぎ、大自然のただなかを何日もかけて歩いて旅する人たちのことだ。

自転車、バイク、車、はたまた新幹線など、旅をするなら、便利な乗り物がいっぱいある。なんで歩くの？ しかも重い荷物がかついで、と思う人も世の中には多いかもしれない。

でも、バックパッカーという人たちは、決して特別な人たちではない。気がついたらこれを読んでる君にだって、遅かれ早かれバックパッカーになる可能性がある。

いま、君が住んでる街がある。その街のこと、どれだけ知っているだろう？ 人口何万人とか、この道はこうつながっていて、あそこに行くにはこの道が何分近いとか、そんな数値的なことではない。もっと感覚的なこと。暖かいとか、冷たいとか、美しい、きたない、やさしい、コワイ、つまらない、楽しい～などなど、空気や街、風景、そして住んでる多くの人たちを含めた総体的なことだ。そんなこと考えたこともない？ そうかもしれない。だってその街だけで暮らしていたら比較する対象が君の感覚の中に少ないのだからね。ほら昔からよくいうだろう、「ふるさととは遠きに在りて想うもの」とね。

そして「歩く」とは、簡単にいうとこういうことだ。

たとえば、たった100mの道を自転車やバイクで走ったら、目先の路面ばかり気にして、いくつかの驚きや感動に気づくだろうか。誤解しないでほしいが自転車やバイクを否定しているわけではない。歩くことでもいえることだが、100mを1分で歩く人と、10分かけて歩く人、はたまた1時間かけて歩く人では、おなじ距離でもそこで出会う情報量に比例して、驚きや感動する機会の可能性が多くなるという、あたりまえのことを再認識してほしいだけのことなんだ。

ちいさな路傍の草花の美しさや、初めて観る小さな虫たちの命の輝きをはじめ、私たち

が生きているこの世界は、多くの驚きや感動する喜びに満ちあふれているのは確かなのだから。

そして最初から衣食住の最強キャンプ道具をフル装備でそろえる必要はないんだ。かえって、日常に使い慣れているカップやスプーンをはじめ、シュラフがなければ毛布を丸めて担いだっていい。大切なことは知らない世界を覗いてみたいという強い好奇心と、その手近にそろえた道具たちでできる範囲の、小さなバックパッキングに歩み出す最初の一步が大切なんだ。

バックパッキングの旅とは「自分はなにも知らなかった」ということを発見することだし、そして「なにも知らない自分」ということが決してはずかしいことではないという「知ることの喜び」を理解することなのだ。そのための第一歩として週末1泊2日くらいの小さなバックパッキングの旅をこころからすすめる。もちろん気の合う仲間たちと荷物を分け合いながら出かけるのも楽しくていい。ただど一つ知っておいてほしいのは、そこにいる人数が少なければ少ないほど、周囲から君が発見できるものが多くなるということだ。ソロで入る森でのキャンプなんて、ちょっとほかでは味わえない贅沢だ。

さあ、ちょっと出かけてみよう。いつもの街をぬけだし、ほんのすこし遠くのはじめて観る世界へ。

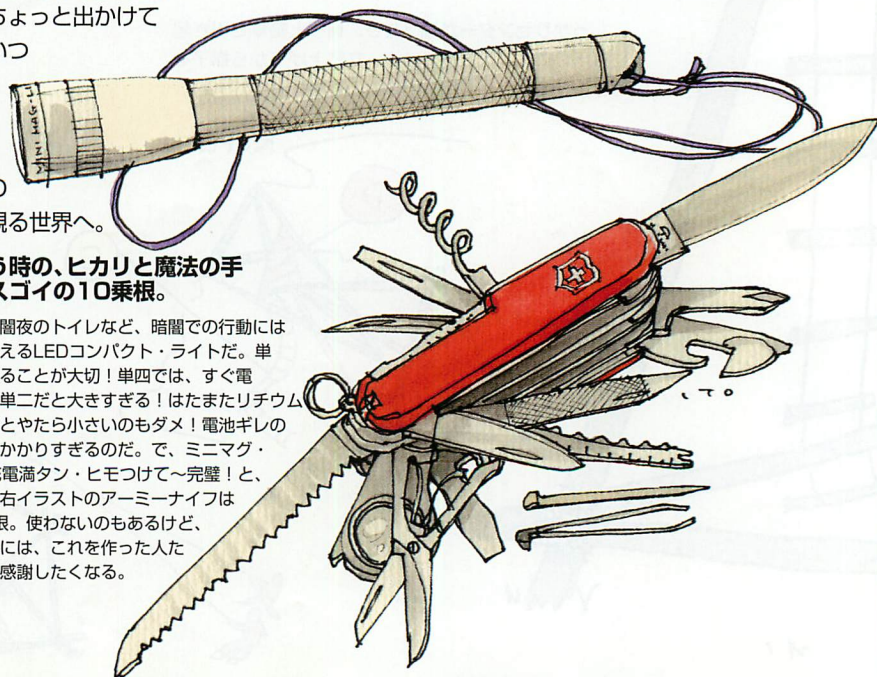
イザという時の、ヒカリと魔法の手ナルホドスゴイの10乗根。

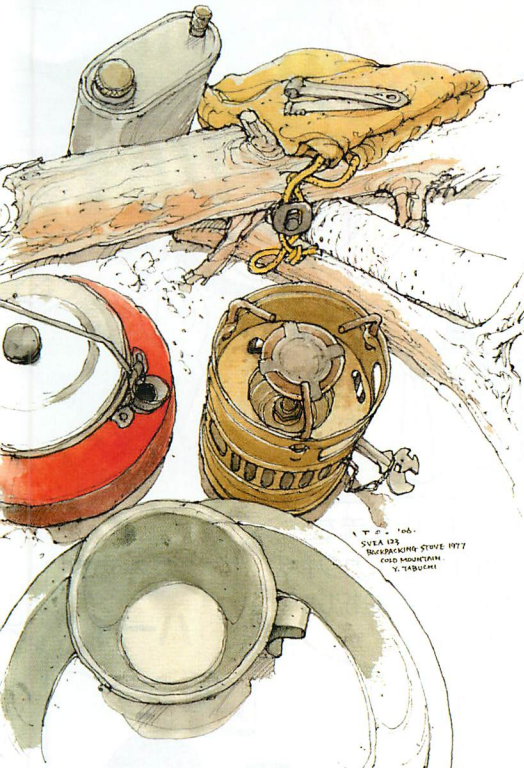
夜食つくりや闇夜のトイレなど、暗闇での行動には単三電池が使えるLEDコンパクト・ライトだ。単三電池が使えることが大切！単四では、すぐ電池切れだし、単二だと大きすぎる！はたまたリチウムだの水銀だのとやたら小さいのもダメ！電池切れの後のコストがかかりすぎるのだ。で、ミニマグ・単三LED・充電満タン・ヒモつけて～完璧！と、あとナイフは右イラストのアーミーナイフは便利の10乗根。使わないものもあるけど、イザという時には、これを作った人たちに対して、感謝したくなる。



軽量コンパクト故障なし ひとり静かな夜の、ぬくもりのある灯り

ガスやオイルを使った明るいコンパクトなランタンもあるけど、ひとり静かにたき火の炎をみつめ、満天の星空をながめたりするには、ローソクランタンがいいよね。まぶしすぎる灯りは、ゆらゆら燃えゆく真っ赤な熾き火(おきび)や、夜間に輝く星々の美しさなどを半減させてしまうのだ。また移動中のオイル漏れや、かさばる使い終わった空のガスカートリッジの悩みなどから、すべて解放されるのだから。そうそう、ローソクはたき火の着火剤としてもそのまま使えるから便利だ。





イチに機能、ニにデザイン、サン・シが使い勝手

あんまり持ち歩きたくないけど必要なモノは台所用品だ。機能が簡単で壊れにくい、手入れが簡単で楽なもの。でも、どんなすばらしい道具に出会えたとしても、これだけはマスターしておくといいいのは「スマートなたき火のやり方」。小さなマッチ箱ひとつと枯れ木さえあれば、ベンチャースカウトの君ならかならず生きていける！また、注いだ少しのお湯で洗ったお皿の、うす味スープを飲み干すのは、上級者の定番である。



衣食住そして遊びと生活すべてをバックでパッキング

自分の日頃の生活道具の中で必要最小限のモノだけを選び、その道具だけで旅をする。なんて不便そうで楽しそうなことだろうか。「バックパッキングとは何を持つべきかではなく、何を持たざるべきか」という自分の中の悪魔と天使の知恵くらべだ！と、昔聞いたことがある。

天然素材の重ね着を基本に組立て 今持っている服をかきあつめて出かけよう

歩く時には「暑くなれば一枚脱ぎ、寒くなれば一枚着る」ことのくり返しだから、[重ね着]が基本。スリーシーズンなら天然素材の普段着でOKだ。突然の雨風にそなえ、ザックの上などすぐ取れるところにカッパや脱いでいったモノを細引きなどで縛っておこう。

靴は履き慣れた、いつものクツを。長距離山道アスファルトは厚底生ゴム厚クツシタ

2泊3日くらいのバックパッキングなら、普段履き慣れているいつもの運動靴でも問題ない。ただしソールは絶対ダメ。ゴム底に限る生ゴム底なら最強だ。初心者だったら、明日から本格的なバックパッカーを目指すとしても、いきなり的高级な本革製のガッチリした登山靴を買いにはするのは危険だ。最初はジョギング用で歩く基礎を、つぎにハイキング用でアップダウンの山道を、仕上げにトレッキング用で長距離をと、少しずつ靴とともにステップアップして「歩く」ことを学ぶといい。



ベンチャースカウトのみなさんへ

ベンチャースカウト最初の関門、ベンチャー章課題の「1泊単独キャンプ」を君はもう体験済みかな？安全対策などの関係で必ずしもソロでなくてもいいこの課題、もし君が隊の仲間と一緒に挑戦したのだったら、この春、夏、どこか都合のいい日を見つけてぜひソロキャンプに改めて挑戦してみよう。野山で過ごす一人きりの夜。「ありゃあ怖かったなあ」なんて一生の思い出モノになるだろう。そしてその経験は大きな自信につながるだろう。もちろん計画をしっかり立てて、隊長と相談のうえで実施しよう。

■文・イラストレーション：伊東孝志